

令和6年7月26日

若林地域会議
会長 都築 和彦 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和6年1月26日に若林地域会議から受けた『（仮称）ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

若林地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	1 若林地域のめざす姿について ◎子育て世代が暮らしたいと思うまち ○多世代で支え合えるまち ・文化及び伝統を継承しながら常に成長していくまち
	市の考え	第9次豊田市総合計画においては、本市のミライをつくっていく次世代、すなわち「こども」起点や視点を大切にしつつ、「こども」から「大人」まですべての人がつながり、支え合いながら豊かに暮らすことをめざしています。また、本市の歴史や文化、芸術や自然といった本市の多様な価値や魅力をミライに継承していくことが大切であると考えます。
2	答申内容	2 若林地域のまちづくりの基本的な考え方について ◎若林地域は子育て世代が減少傾向にあり、多世代交流が徐々に困難になっていくことが想定されるため、子育て世代にとって魅力があり、暮らしたいと思うまちづくりを推進する。
	市の考え	「(仮称) ミライ構想」における将来像「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」には、豊田市での暮らし満足度を高め、豊田市に住んで良かったと思えるまちをめざすものと考えます。 また、子育て世代にとって魅力があり、暮らしたいと思えるまちづくりには、「こども」起点や「こども」視点で物事を捉え、取組を進めていくことが大切であると考えています。

3	答申内容	3 若林地域の都市構造について (1) 生活 ◎子育て世代が利用できる子育て支援センターを設置し、キッズスペースを充実させるとともに、子育てに悩み、困っている人が気軽に育児相談できる環境を整備する。また待機児童をゼロにする。 ◎安全安心なまちづくりのため、駅前周辺の主要道路に防犯カメラを増設する ◎歩車分離を明確にした道路整備を実施するとともに、子どもが安心して学校に通えるよう、通学路の安全を確保する。 ○子育て世代が子どもの成長に合わせて部屋をアレンジできる市営住宅を増やしてほしい。 ○若林駅付近に全天候型のイベント広場を建設し、地域と学校がタイアップしてイベントを実施する。また、災害時には避難場所として活用する。 ・名鉄高架化事業に伴い、区画整理を進める中で駅前に商業用地を確保するとともに、高架下の有効活用として市営の駐車場を設置し、駅を中心とした経済の活性化を図る。
	市の考え	今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称)ミライ実現戦略2030」では「こども」起点や「こども」視点で物事を捉え、取組を進めることが大切と考えています。 特に、「こども」から「大人」まですべての人がつながり合いの中で豊かに暮らすことをめざし、こどもたちのミライに夢と希望を育むことができるよう取組の検討を進めます。 「防犯」や「こども」の安全な交通環境を確保の視点は、安全・安心な暮らしを支える非常に重要な視点であるものと考えており、市全体に渡る取組として施策の中で示していきたいと考えています。 市営住宅や駅周辺のまちづくりの視点については、具体的な取組において参考とさせていただきます。
4	答申内容	(2) 産業 ・地域の企業及び飲食店が連携し、地域限定商品を作り、手土産等で活用し、地域を盛り上げる。 ・若林駅から若林八幡宮までを縁日通りとし、お店を出店しやすい環境を整備し、子どもから大人までの人の賑わいを作り出す。

	市の考え	地域活性化に向けて、地域特性を生かした取組を推進していくことが重要であると考えています。 なお、「（仮称）ミライ構想」において、「共働によるまちづくり」を更に進めることを掲げていく考えです。 行政が担うべきことはしっかりと役割を果たしつつ、市民や民間事業者などの多様な主体が主役となってまちづくりに参画し、楽しみながら活躍できる環境づくりを行い、「共働によるまちづくり」を更に進めることが大切であると考えています。
5	答申内容	（３）移動 ○名鉄高架化事業に伴い、前林地域を中心に運行する高岡ふれあいバスのバス停を、若林地域に増設し、地域内の公共交通の利便性を図る。 ○若林地域を中心にライドシェア事業を推進する。 ・若林地域限定のバスやタクシーを運行する。また、ラッピングやネーミングライツを導入して、民間事業者の支援を受けて継続して運行できるようにする。 ・若林駅から名古屋駅までの直通バスの運行や、名鉄三河線の複線化を早期に実現し、名古屋まで乗り換えなしに通うことのできる「住んでみたいまち」（ベッドタウン）としての位置づけを確立する。 ・名鉄三河線の複線化を早期に実現するための働きかけをする。
	市の考え	地域内の移動について、地域特性に応じた持続可能な移動サービスの実現を目指し、地域の実態に合わせて、「自助・共助・公助」による多様な移動手段を組み合わせた交通の確保を図っていきます。 ライドシェアを始め、民間事業者との協力など、これまで以上に重要な視点であるものと認識しており、多様な主体と連携しながら必要な交通の確保を図っていきます。 また、「住んでみたいまち」となっていくことは非常に重要な視点であり、交通の面での利便性・魅力向上を検討するとともに、名鉄三河線の複線化について、早期実現に向け引き続き取り組んでいきます。

6	答申内容	(4) 自然・防災 ○逢妻男川を有効活用し、子どもたちが遊びながら自然の怖さや防災の大切さ等を学べるイベントを開催する。 ・吉原町、若林地域、竹下自治区のビオトープをつなぐ遊歩道を整備し、自然への親しみと継続的な健康づくりの機会を増やす。
	市の考え	第9次豊田市総合計画では、「こども」起点や「こども」視点で物事を捉え、取組を進めることが大切であり、各地域における豊かな自然を始めとした地域資源を活用し、多様な場で、多様な人と関わり、多様な経験をすることで、こどもの生き抜く力を育くむことにつながると考えています。 また、人生100年時代といわれる中で、多様な地域資源を活用しながら、人と人、世代と世代がつながりあうことで、こどもから高齢者まで、誰もが豊かに暮らせる社会をつくることが大切であると考えています。
7	答申内容	4 その他の意見 ○若林地域の歴史と伝統をおさめた映像を作成し、SNSやYouTubeを活用し、幅広く発信するとともに地域の文化を次世代へと繋いでいく。 ○若林駅前にインスタ映えスポットを作り、周辺地域から若者を呼ぶ。
	市の考え	各地域で継承される歴史・文化は本市ならではの魅力であり価値であると考えています。第9次豊田市総合計画においては、市民が歴史・文化等の多様な地域資源に触れられる機会づくりを進めるとともに、地域の価値や暮らしについて、市内外への情報発信に取り組むことが大切であると考えます。
8	答申内容	○名鉄高架下を安価に貸与し、駅周辺の活性化を図る。
	市の考え	拠点や鉄道駅を中心としたまちづくりは、今後の社会環境の変化を踏まえ、持続可能なまちの実現に重要な視点であると考えています。鉄道高架下の空間活用については、駅周辺のまちづくりに関する具体的な取組において参考にさせていただきます。

9	答申内容	○地域行事がある際、学校との共同事業とし、こどもの参加を促し、楽しむことで郷土愛を育む。 ・若林地域独自の地域貢献者を表彰するセレモニーを開催する。 ・中学生の部活動指導を外部の経験者等に有償で依頼し、学校・教員の負担を軽減するとともに、質の高い活動環境を整備する。
	市の考え	「(仮称) ミライ実現戦略2030」において注力する視点として、こどもたちが、ミライを生き抜く力を育むため、多様な場で、多様な人・世代とつながり、多様な経験ができるまちづくりを進めることや、人生100年時代に豊かな経験・活力を次世代につなぎ、高齢者を始め、大人たちがいきいき暮らす姿を伝えることで、まちへの愛着を育むとともに、こどもたちにミライに夢と希望をつくることを目指すことを重視したいと考えています。 また、「共働によるまちづくり」を更に進め、地域や企業、教育機関といった様々な主体が参画する取組につなげていきます。
10	答申内容	豊田市南部を副都心化する。
	市の考え	第9次豊田市総合計画においては、拠点を中心に機能や居住を集積させるとともに、拠点同士が連携することで様々な価値を生み出すまちの実現をめざしていきます。豊田市南部においても、都市拠点を中心に様々な機能を強化することで、持続可能なまちの実現につなげていきたいと考えています。